



日本最初の茶畑である富春園では、
今も茶の木が管理されている。



閑雲亭の お茶とお菓子

鎮信流でいただくお茶と、
1月の復元菓子「朝日饅頭」。
復元菓子は月替わりのため、
何度訪れても楽しめる。

お殿様の茶室で お茶の始まりと 歴史を知る。お茶

鎮 信公が鎮信流を創始し、詮公が茶道の衰退を嘆いたのには、大きな理由がある。それは平戸がお茶伝来の地という歴史を持っているからだ。

鎮信流が創始されるおよそ五百年前、平戸にはすでに茶畑があった。臨済宗の開祖といわれている栄西禪師は中国（当時の宋）で禅を学び、一一九一年、平戸の港に帰り着いた。この時、持ち帰ったのがお茶の種。栄西禪師は平戸の富春庵という小院において日本で初めての座禅修行を行い、この庵の裏山に茶の種を播いたという。富春庵にちなんで富春園と名付けられた日本初の茶畑が今も残っている。栄西禪師は武士や庶民にもお茶を飲む習慣が広まるきっかけを作ったともいわれており、富春園の前に立つと感慨深い。

お茶を愛した鎮信公と詮公。そして百葉之図を作った胤公もまた、茶人であった。岡山館長は平戸の魅力をこう話す。「日本の海外交流史の中でも、

平戸はとても重要な役割を果たした場所。西洋から入って来た菓子文化が今も続いていることは、平戸の大きな魅力です。そして、そうした文化の中心には、いつも松浦家の存在がありました。海外の品をコレクションした三四代の静山公をはじめ、松浦家代々の藩主の中には文化を大切にされた方が多くいます。

昔から海外の文化を取り入れてきた平戸ですが、その風土は今も変わりません。観光客や留学生など、たくさんの外国人との交流があり、平戸では八十歳のおばあちゃんでも『うちでご飯でもどうぞ』と外国人に気軽に声をかけます。そうした海外のものを素直に受け入れる平戸の人々の気風というのも、魅力ですね。

この地で育った文化に触れ、お殿様自慢のお菓子をゆっくり味わう時間。それは平戸旅の醍醐味であった。



現在の建物は1987年に台風で倒壊したものを、
1年の歳月をかけて再建したものを。

